



独居の方の 看取りについて

最期は自宅が良いと思ってしまう方は多いですが、現実には、最期まで自宅で頑張れる方は少数です。特に独居の方の場合、体の不自由が出現して身の回りのこと



松原 清二 医師
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

ができなくなり、自宅での生活は続けられないのでは……と危惧されるケースが目立ちます。そういった方々のために、社会には有料老人ホームなどが用意されています。しかし、それでも最期まで自宅で「という方は多いです。そこで、我々在宅専門の医療機関や訪問看護、ヘルパー、福祉用具のスタッフの存在が必要となってきます。最近も、ガン患者さんで数々の病院に入院してはすべしに退院し、「やはり自宅が良い」と在宅療養をされている独居の方がいました。ガンによる痛みが強く、処方された薬では痛みを抑えられず、買物にも行けない状態です。部屋の温度調節もできず、いつもむせ返るような暑さでした。我々は連日診察に行き、後半は食事も取れなくなり、経皮的に麻薬を投与し、痛みの管理を行いました。また、ケアマネジャーがアパートの管理会社に24時間クーラーをつけるように頼み、ヘルパーも尿道カテーテルのバッグの尿を破棄するなどして、全員で一人の患者さんを支えました。そして患者さん

【まつばらホームクリニック】
☎ 042-439-1250
西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
■電話対応 : 午前 9:00 ~ 午後 6:00
■定休日 : 土日 (祝日は診療)
■訪問地域 : 西東京市全域、東久留米・新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック